

2022年12月9日

ながおか・若者・しごと機構
米百俵デジタルコンテスト事務局

米百俵デジタルコンテスト（米100DC）2022 1次審査通過作品

2次審査に進む作品を、下記の14作品に決定しました。審査員の全体講評と合わせて発表いたします。

作品番号	ジャンル	作品名	作者名（所属）
100077	スマホ・タブレットなどで動作するアプリ	ボトルブック	竹中 実玖（長岡造形大学）
100089	スマホ・タブレットなどで動作するアプリ	もじらぼ	田浦 愛（東京工芸大学），田中 龍之介（同），峯岸 恵里（同），那須野 はる（同），池田 涼香（同）
100094	スマホ・タブレットなどで動作するアプリ	お手伝い！	岡元 光希（新潟県立小千谷西高等学校），岡村 すみれ（同）
100097	スマホ・タブレットなどで動作するアプリ	ハコくんとえらぼう！	森田 琴葉（和歌山大学），岡崎 理来（同）
100098	スマホ・タブレットなどで動作するアプリ	だれでものがたり	野澤 伊織（新潟県立小千谷西高等学校）
300004	IoTデバイス	そらミル	古野間 久知（新潟明訓高等学校）
300006	IoTデバイス	Show Me!賞味期限	北野 遥太（東京都立両国高等学校），河村 侑俐（同），川崎陽輝（同），阿部 ほか（同），伊藤翼（同）
300007	IoTデバイス	さがしものウォッチ	渡久山 寛（東京都立両国高等学校）
300013	IoTデバイス	おしゃべりタイムカプセル	内山 葉月（長岡造形大学）
300014	IoTデバイス	はなまる屋	阿部 桃香（長岡造形大学）
300018	IoTデバイス	まもるのどん	峯岸 恵里（東京工芸大学），田中 龍之介（同），那須野 はる（同），池田 涼香（同），田浦 愛
300023	IoTデバイス	フレーズ FRIEND×CASE	西 結歩（長岡造形大学）
300029	IoTデバイス	虫撮りかご	江間 亜柘樹（岐阜県立岐南工業高等学校），松浦 由晋（同），湯口 未悠（同），山田 颯大（同）
300030	IoTデバイス	YOMU～新しい本に出逢おう～	宮島 春香（長岡造形大学）

※作品名は、今後作者が行う2次審査に向けてのブラッシュアップ作業の結果、変更される可能性があります。

全体講評（敬称略・順不同）

審査員 市原 えつこ メディアアーティスト

アイデアの完成度が高い作品が多かった。1次審査を通過した作品にもそうでない作品にも言えることだが、次はこんなステップに挑戦してみしてほしい。たとえば実際のユーザーにアイデアを見せたり簡単なプロトタイプを使ってもらって反応を見ること。おもちゃ屋さんやアプリストアの中でどんな見え方で売られるのか、パッケージデザインやCMはどうあるべきかを考えてみる。見る人が「ほしい」と感じられるような使用シーンが含まれたプレゼンテーションを作ること。既存の類似サービスを調べてみて自分のアイデアの良い点や独自性を明確にすること。実装まではせずとも、世の中にどんな技術があるのか調べてみて、実現するとしたらどの技術を使うと良いかを考えること。これらの体験をすることで新しい発見があったり、より良い作品にするためのヒントを見つけることができるだろう。自分のための学びになるのでぜひ挑戦してみしてほしい。

審査員 高瀬 章充 Socialups株式会社 代表取締役社長

どの作品も動画を見ればどんなアイデアかが伝わってきた。言葉でしゃべる、スライドで見せるといった従来のプレゼンテーション手法とは別に、動画で説明をするというスキルは今後必須になってくるだろう。90秒以内という短いデモ動画でアイデアを表現することが出来ていて素晴らしいと感じた。また、惜しくも1次審査を通過しなかったすぐれた作品もあった。審査結果を聞いて終わりということではなく、この後に自分のアイデアをどれくらいまで突き詰めるのか、もう一歩次に進めるなら何をするのか、考えることは良い経験になると感じた。

審査員 改田 哲也 風の企画事務所 代表/長岡技術科学大学 アイデア開発道場 道場長

面白く審査をさせていただいた。応募してくれたすべての作者に対して「本当にあなたはそれがほしいのですか？」という問いかけをしたいと思った。いじわるな意味で問いかけるということではなく、作者自身が「こういうものがあつたらいいよね」と心から思えるアイデアであることが、何よりも一番大切なことだと考える。シンプルなことだが、自分が本当にほしいと思えるものは、ほかの人にも喜んでもらえる可能性が高い。2次審査に向けたブラッシュアップでは、自分の考えたアイデアがどんなふうの世界を広げられる可能性があるのか、さらに具体的な表現が見られることに期待している。

以上